

2013年（平成25年）

ハタハタ情報 No.2

平成25年10月25日発行

中央水産試験場 資源管理部

Tel : 0135-23-8707 Fax:0135-23-8709

—後日にインターネットからもご覧いただけます—↓

マリネット北海道 : <http://www.fishexp.hro.or.jp/exp/central/index.html>

水試調査船北洋丸によるトロール調査（留萌沖）の結果を報告します。

【調査期間】 2013年10月18日～10月19日

【調査海域】 留萌沖の水深200～300mの海域4調査点でトロールを曳網しハタハタの採集試験を行いました。計210尾（0歳魚を除く）の標本を採集し、体長測定などを実施しました。

- 採集状況は1マイル曳網あたり平均28.3尾と前月の調査より増加。近年の中では比較的多く採集された。
- 1歳魚（2012年級）が全体の約82%を占める。
- 成熟の進行はここ数年と同傾向。沿岸前浜への来遊は11月下旬が目安。

1. ハタハタの分布状況（図1）

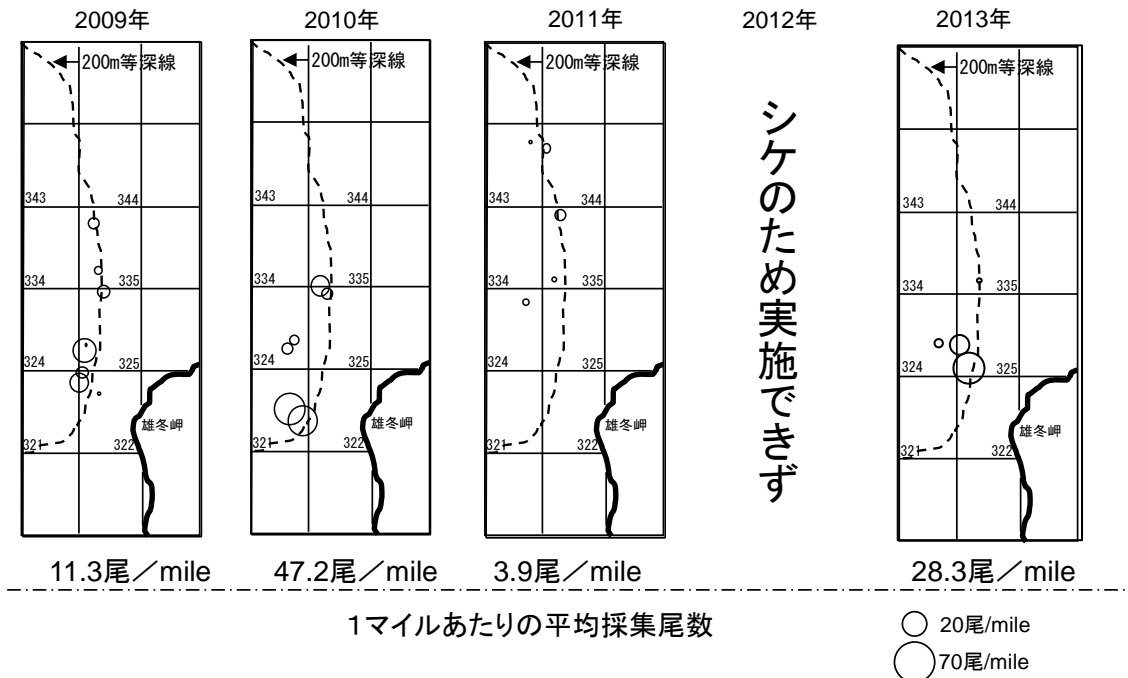


図1 10月トロール調査による採集尾数

（注：2009年までは中央水試おやしお丸による調査結果）

今回の調査の平均採集尾数は1マイルあたり28.3尾と、近年の中では比較的多くなりましたが、多く採集されたのは一調査点のみで、海域全体としてはハタハタが多く分布しているという状況ではありませんでした。

2. ハタハタの魚体サイズと年齢 (図2)

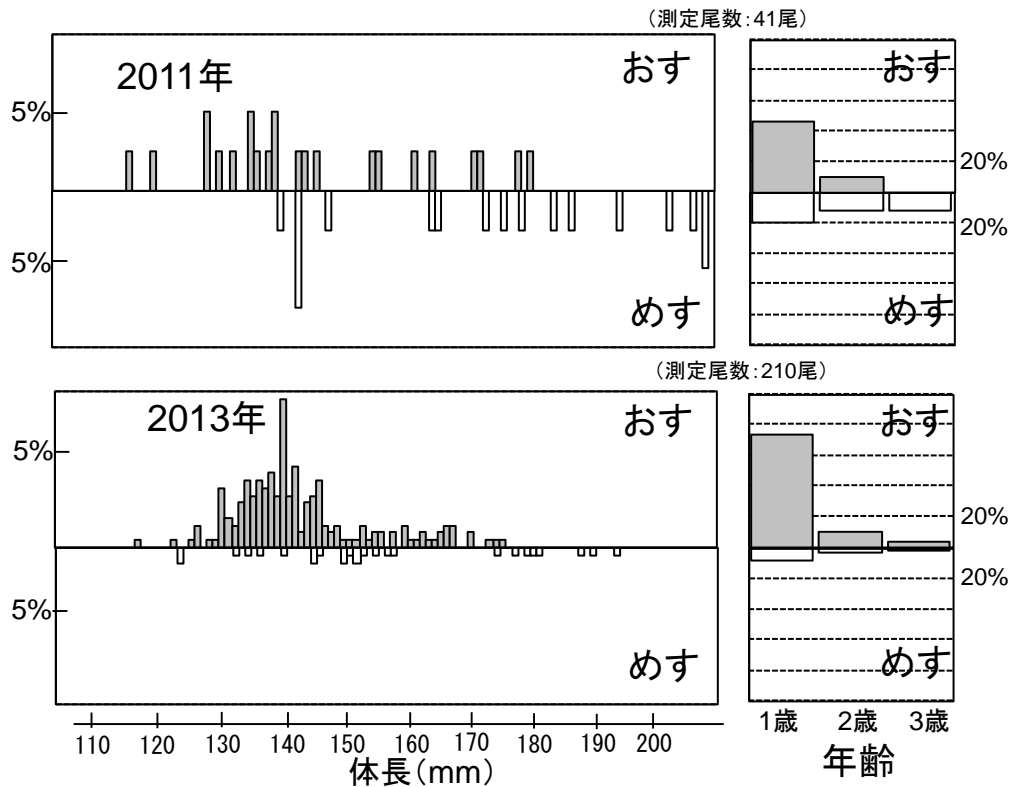


図2 今回の調査で採集されたハタハタの体長組成と年齢組成

上段図：一昨年（2011年）調査 下段図：今回の調査 ※2012年はシケのため未実施

今回の調査で採集されたハタハタの体長は、雄、雌ともに体長150mm以下の小型魚の割合が多く、年齢組成は前月の調査結果（ハタハタ情報 No.1）と同様に雌雄とも1歳魚（2012年級群）の割合が全体の約82%を占めました。前報やハタハタ漁業者実践会議でご説明したとおり、今漁期は1歳魚主体で、昨年や一昨年と同じような小型魚主体の漁獲物組成になるのではないかと考えられます。

3. 成熟状態 (図3)

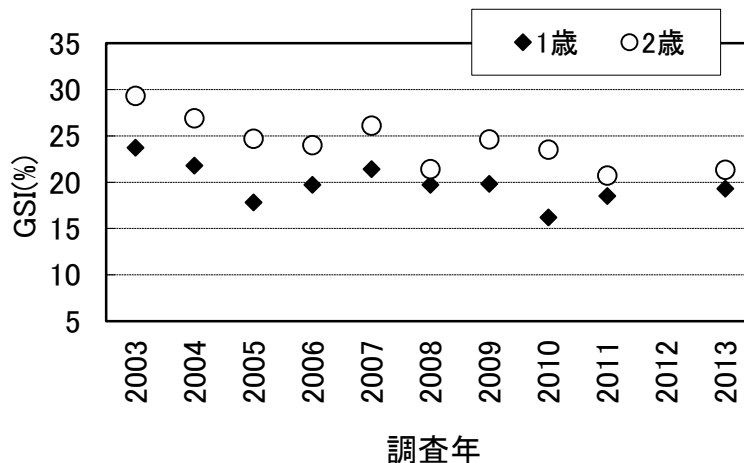


図3 毎年10月下旬のハタハタ雌のGSI (GSI=卵巣重量/内蔵除去重量×100)

ハタハタは成熟状態（生殖巣の発達状態）が進むにつれ、南下し沿岸にて産卵することが知られています。雌の体重に占める卵巣重量の割合（GSI）は産卵が近づくにつれて大きくなり、沿岸に来遊する頃には40前後の値となります。今回の調査で採集されたハタハタ雌のGSIは、1歳魚で19.3%、2歳魚で21.3%で、2011年漁期とほぼ同傾向でした。これらの結果と過去の沿岸来遊時期の関係から、今年の沿岸への来遊時期は、今後の海況などにも影響されますが、ここ数年の傾向と同様に11月下旬頃が目安と考えられます。

4. 水温（図4）

今回の調査の中で行ったCTDによる雄冬沖の表層から底層にかけての水温測定結果を、同時期の平年値と併せて示しました。表層から60m付近までは16℃前後で、過去5年平均（2007-2011年）と比べるとやや高めであり、ハタハタの分布水深である200m付近の水温は2℃台後半で、平年並みか若干高めの水温となっていました。

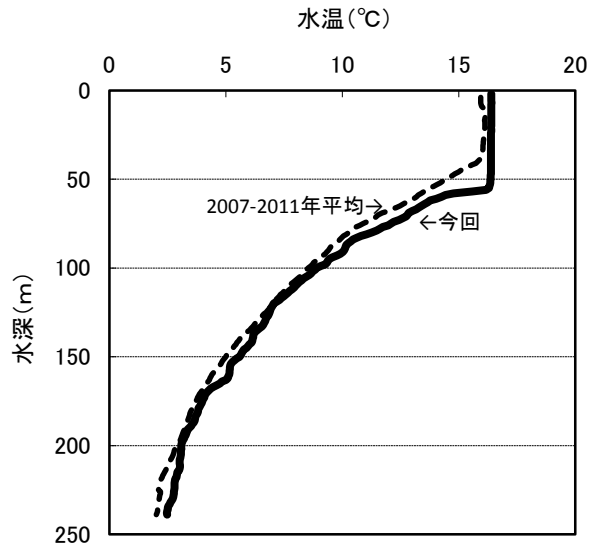


図4 雄冬沖の水温分布

5. 今後の調査など

今年度の雄冬沖における調査船トロール調査は終了です。関係漁業者の皆様、調査へのご配慮ありがとうございました。今後は、各漁業による漁獲物の標本採集調査などを実施いたしますので、重ねてご協力よろしくお願いたします。